

小学部 自閉症学級グループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・学習指導要領を使い、対象児童の「国語」「算数」「図工」「音楽」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

小学部2組 遊びの指導 「みるみるあそび」 T1授業者 奥平 桜

児童生徒の実態	自閉症学級（1年生3名、2年生3名） ・見通しをもつことで授業に参加できる。 ・繰り返し取り組むことでやり方を理解することができる。 ・指導者や友達に注目して模倣することができる。		
本時の目標	・簡単な決まりのある遊びについて知り、やり方を理解して自ら遊ぶことができる。 ・指導者や友達と一緒にやりとりしながら遊ぶことができる。 ・準備したい家ややりたい役を選ぶことができる。		
つきたい力	・やるべきことが分かって自分で取り組める力 ・見通しをもって活動できる力 ・できることを増やし、自信をもっていろいろな活動に取り組む力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める  見通しを持つ		

○授業の様子



○成果

- ・今の時期だからこそ、友達との輪の広がりのある今回の授業ができた。
- ・音楽の授業とつながりをもたせることができた。
- ・休み時間にも再現遊びをする姿があった。

○課題

- ・対象児童が欠席だったので残念。対象児童がいたら、もっと終わりを分かりやすくする必要があった。
- ・プロジェクターで家や風景を映すとさらに想像力豊かに遊び込めることも考えられる。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・児童の実態に合った題材設定の大切さを感じた。
- ・児童が「選ぶ」場面が多く設定されており、主体的に活動していた。
- ・やることがシンプルで分かりやすかった。「めあて」の提示があるとさらに分かりやすくなる。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・学習指導要領を開く頻度が増えた。
- ・つけたい力を明確にしたことで、学級間で児童の見立てをすり合わせることができ、授業のねらいがぶれなかった。
- ・どこかのタイミングで「つけたい力」を振り返って再検討できるとよかった。

6 次年度に向けて

- ・学習指導要領を開いて確認したので、来年度は活用に力を入れる。
- ・ピクトグラムが分かりやすかったので、日々の略案でも使いたい。
- ・全学級が同じ教科・領域で授業して研究するのもおもしろそう。

小学部 知的グループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・学習指導要領を使い、対象児童の「国語」「算数」「図工」「音楽」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

小学部7組 遊びの指導 「きらスタ☆フードコート」 T1授業者 大槻 綾佳

児童生徒の実態	知的障害学級（3年生1名、4年4名、5年2名 B1、B2段階） ・どの児童も買い物経験や外食経験があるため、ある程度お店屋さんのイメージを持っている。 ・繰り返しお店屋さんごっこの活動をする中で、品物を渡したり挨拶したり計算したりすることができるようになってきた。		
本時の目標	・相手に聞こえる声の大きさと丁寧な言葉づかいで接客する。 ・本物の食べ物のように落としたりしないように相手に渡す。 ・正しくお金の計算をして、おつりを渡す。		
つきたい力	・買い物体験や接客体験を通して、「働く」ことに対するイメージを膨らませる。 ・自分のお店をもって接客することで達成感を味わい、他の教員に見てもらってほめてもらうことで自信につなげる。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 多様な手段で説明する	 知識・技能を習得する

○授業の様子



○成果

- ・繰り返し取り組む中でお店屋さんとしての接客やお客さんとしての買い物を楽しむことができた。
- ・相手に伝わる声で挨拶したり丁寧に渡したりすることができた。
- ・次回の予告として、参観日にフードコートをすることを伝えると次の活動への意欲を感じることができた。

○課題

- ・授業全体としての流れが把握しづらかったようなので、指示されなくても「自分たちで動ける」ことを

意識して授業の説明や授業の工夫を行いたい。

- ・今回は1人での活動だったため、協働する場面を設定した活動にも取り組んでいきたい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・フードコートというみんなの親しみがあるテーマで、楽しく活動していた。
- ・お店の準備がすごく多くて、商品だけでなく看板・グッズなどたくさん考えて作ってきたのが伝わった。
- ・片付けのことまで流れを説明することで見通しをもたせ、自分たちで行動する力を付けていく。さらに中高で積み重ねていくと就労へつながっていく。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・公開授業や研究授業を通して、改めて授業について考える機会となった。
- ・日頃の授業の悩みについて、全員がコメントを書いていく方式だったのでたくさんの意見がもらえた。
- ・体制上公開授業や研究授業を参観するのが難しかった。そのため、授業者としても参観者がいなかったり少なかったりして助言がもらえなかった。
- ・人数の少ない小学部の知的グループでの話し合いは、意見交流しやすかった。

6 次年度に向けて

- ・公開授業を動画撮影などして、グループ内で様子を伝え合えたら良かった。
- ・他のグループや他学部の授業も可能であれば動画撮影した物を見ることができれば嬉しい。
- ・来年度も小グループでの学部研修のほうが話しやすい。
- ・教科の視点に重点をおくとなると、小学校等の学習指導要領も必要になる。

小学部 重度重複学級グループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・学習指導要領を使い、対象児童の「国語」「算数」「図工」「音楽」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

小学部 9.10組 生活単元学習 「わわごりサイクル工場」 T1授業者 ハ講 宏史

児童生徒の実態	重度重複・肢体不自由学級 (1年生2名、2年生5名 4年生1名 5年生1名 6年生1名) ・車椅子を使用している児童は7名、医療的ケアを必要とする児童は4名。 ・発達段階に幅がある(1歳前後から6.7歳まで) ・生育環境も様々で経験不足な児童が多い。		
本時の目標	・大きさの違いに気づいたり、大きさで分けてみようとしたりする意識や意欲を高める。 ・円の穴には通らないが長方形の穴には通る等2段階の検品に気付く。(発達段階の高い児童)		
つけたい力	・授業ごとに指定される条件に合うように、「分ける」ことで物事を分化していく力を付けたい。 ・単元の中で「分ける」ことを繰り返す中で、素材ごとに「分ける」利点に気づき、分別して収集する意識をもたせたい。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める  粘り強く取り組む  振り返って次へつなげる	 互いの考えを比較する  共に考えを創り上げる  協働して課題解決する	 知識・技能を習得する  自分の考えを形成する  新たなものを創り上げる

○授業の様子



3 成果と課題

○成果

☆教具の良さ

- ・身近なものであった
- ・（児童の実態から）普段触れる機会の少ない物
- ・どこにでもたくさんある

☆環境面の良さ

- ・「工場」という設定
- ・子ども同士、活動が見える場の設定

○課題

- ・発達の幅が広いので、どこに焦点を当てるべきか難しかった。
- ・もう少し環境が整理されていてもよかった。
- ・マンネリ化しやすい領域であるため、年間を通しての単元の展開の方法や工夫

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・児童の実態に合った題材設定で児童がいきいきと活動できていた。
- ・たくさんの種類の素材があるメリットもあるが、整理されていても良かった。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・指導者同士が刺激し合い授業づくりの工夫をし、高め合うことができた。
- ・授業の楽しさ＝学校の楽しさ
- ・他の授業とのつながり、積み重ね、児童の学びにつながった。

5 次年度に向けて（研究内容）

- ・教科と自立活動のすみ分け
- ・学習指導要領の活用の仕方
- ・教科指導について

中学部 自閉症グループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・学習指導要領解説（国語、算数・数学、美術、音楽）のチェック
- ・悩み相談、アドバイス
- ・研究・公開授業の事前・事後研

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

中学部Ⅰ組 生活単元学習 「まいづるの果てまでイッテQ」 TⅠ授業者 梅井 美希

児童生徒の実態	自閉症学級（1・2・3年生 15名） ・自分の考えをまとめて伝えることが苦手である。 ・友達と一緒に、挑戦できることが増える。		
本時の目標	・郵便ポストの数を調べる。 ・創った地図をみて、郵便局やポストの必要性を考える。 ・自分の考えを言葉にしたり、友達に自分の意見を伝えたりすることができる。		
つけたい力	・自分の考えをもち、友達に伝える力 ・地域の方や公共施設で働いている人と積極的に関わる力 ・ものごとの特性に気付く力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 協働して課題解決する	 自分の思いや考えと結び付ける

○授業の様子



○成果

- ・学級ごとに、チームワークが高まってきた。
- ・「なんで？」ということをも自分で仮説を立てて考えようとしている。
- ・自分の知っていることを誰かに伝えたい気持ちが増えた。

○課題

- ・授業内容が盛りだくさんで、生徒がついていけない。
- ・生徒が司会進行することが難しい（サブの先生のフォローがあり成り立っていた）。
- ・人数も多く、発達の幅も広いため興味関心を絞って授業をすすめることが難しい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・ 本時の目標と子どもに提示するめあては共通にする（分かりやすく書く）。
- ・ 地図を読むためには、学校内の地図から学習をしていく方法があるのではないか。
- ・ グループ学習では、友達同士で教え合う姿が見られた。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・ 少なからず、学習指導要領を意識して授業をしようとした（今までは、学習指導要領が分厚すぎて読むハードルが高かった）。
 - ・ 目指す児童生徒の姿の『主体的・対話的で深い学び』のピクトグラムが分かりやすかった。参観に行っても、何を目標にしているかも分かったため。
 - ・ 学習指導要領を読み込んで、通知表にもっと落とし込む余地があった。
- ⇒学習指導要領の読み方の決まりがあれば分かりやすい。
- ・ 学習指導要領の仕組みや役割が分かればもっと使い込んでいける。
 - ・ 指導内容表を使用し、3年サイクルで年間指導計画を見直していきたい。
 - ・ 生活単元学習は、教科横断的な視点で学習をしていきたい。

6 次年度に向けて

成果と課題、考察を参考に次年度に引き継ぐこと等（例：アセスメントをより丁寧に）をまとめる。

- ・ 自閉症の障害特性に応じた学習指導要領の読み方をしたい。
- ・ 定型発達の子どもの学習している順序を知り、支援学校で障害特性に応じて指導したい。
- ・ 教科の視点をもっと深めたい。
- ・ グループ研で、同じ設定の授業（同じ単元、同じ生徒）をつくってみる。お互いにどんな視点で授業づくりをしたか、どんなところにポイントをもってきたかが分かる。
- ・ 体育では、ゲーム制のある運動をしたい。発達の幅があるので、ルールを少し変えていかないとゲームは難しい。

中学部 知的グループ 研究報告

Ⅰ 研究の経過

＜令和４年度＞

- ① 学習指導要領を用いて、協同的な学習で、「自分の考えを深め、表現・伝える力」がどのように教科や領域にあるのか学ぶ。
- ② 各学級で必要な力について話し合う。

２ 研究授業・公開授業の様子

＜令和４年度＞

中学部６組 保健体育科 「アルティメット」 TⅠ授業者 舟木 雄史

児童生徒の実態	自閉、知的、準ずる教育学級（３年生 ２名 ２年生 ５名 １年生 ４名） ・知的障害５名、自閉症５名、準ずる教育（※本授業には参加してません。）で構成された学級で授業に応じ、グループに分かれて学習している。 対象生徒の実態 ・運動に対する苦手意識がある。 ・何事にも前向きに取り組もうとするが、苦手なことに対してはネガティブな発言が見られる。 ・相手の話の内容よりも、自分の思いや伝えたいことを優先してしまう傾向がある。		
本時の目標	・空いている空間を見つける		
つきたい力	・話し合い活動で「空いている空間」を見つける力 ・苦手な運動にも取り組める力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 振り返って次へつなげる	 協働して課題解決する	 知識・技能を習得する

○授業の様子



○成果

生徒

- ・空いている空間を話し合って、見つけることができた。
- ・自分の役割を理解して、ゲームで実践できた。

指導者

- ・つきたい力と教科の目標を結び付けて活動を設定することができた。

○課題

- ・「空いている空間」を理解している生徒とそうでない生徒の差があった。
- ・動画を撮って成功パターンと失敗パターンを振り返れるとより分かりやすい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・事前研で頂いた意見から授業で活かした内容や参観に来られていない指導者にも授業の映像を見て頂いた。

参観者からの感想

- ・複雑なルールの中でもチームで協力していく姿が見られた。
- ・ボードなどで実際に動かす。そして、動いてみるなど自分たちから発信できる何かがあればよかった。
- ・全員がわかりやすいルールで、みんなが理解して意欲的に取り組めていて良かった。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

○成果

生徒

- ・友達と協力して、活動に取り組むことができた。
- ・自分で考えて、興味を持って取り組みことができた。

指導者

- ・アセスメントをしっかりと、つけたい力を考え授業作りをすることができた。
- ・学部が変わった時や個別の指導計画を立てる時に学習指導要領を参考にした。

○課題

生徒

- ・自分で考えたり、選択したりして行動できる力をつけたい。

指導者

- ・学習指導要領をもっと活用できる方法を考えていきたい。

6 次年度に向けて

成果と課題、考察を参考に次年度に引き継ぐこと等（例：アセスメントをより丁寧に）をまとめる。

- ・どのような目標をもち、作業学習に取り組ませたら、生徒にとってより良いのか。高等部との系統性も踏まえて全体で考えていくのはどうか。
- ・どのように授業を組み立てたら、主体的に取り組む力が育まれるか。

高等部 Aグループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・対象生徒を決め、学習指導要領の目標に照らして実態把握を行い、卒業後の生活を見据えた「つきたい力」を明確にした。
- ・「つきたい力」を授業の学習活動のねらいに関連付け、「つきたい力」を育むために学習活動の中で必要な支援の在り方を位置づけて授業づくりを行った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

高等部2組 生活単元学習「ジャックと豆の木」

T1 授業者 田中 俊大

児童生徒の実態	重度重複学級（2年生 2名） ・脳性麻痺、気管切開（喉頭分離）など日常的に医ケアが必要である。 ・全身に過度な筋緊張、左凸側弯がある。 ・音楽が好き。興味のあるものには、身体や顔を動かす、口を開閉させるなどで表出する。		
本時の目標	(1)登場人物とやりとりする中で、自分の気持ちを表情や動作で表すことができる。 (2)素材の感触（豆の木の葉っぱ、豆など）に気付くことができる。		
つきたい力	・外界の刺激を感じ取る力 ・自分の想いを表現する力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	興味や関心を高める  興味や関心を高め る	思考を表現に置き換える  思考を表現に置き 換える	知識・技能を習得する  知識・技能を習得 する

○授業の様子



○成果

- ・担任間で生徒に対するアセスメント（得意な五感、表出手段等）ができたことで、子どもの表出につなげることができた。
- ・「まめのきぐんぐん」などオリジナルのテーマソングを作り、同じ場面を繰り返し学習したことで、次の活動が分かってできる様子が見られた。

○課題

- ・重度重複障害のある生徒に「できた感」を！「触れる→気付く→表出する→褒められる→褒められたことを感じる→できた」

- ・学習指導要領「解説」の活用について
教科の視点など、担任間での共通確認に生かせる。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・ぬいぐるみやスイッチなど、五感を刺激するための工夫がたくさんあった。場面転換、明暗など、視覚的にも工夫があった。
- ・五感を働かせたことへの、フィードバックが大切である。思考する時間（反応）を待つことが重要である。
- ・「子どもが褒められたことを感じる→できた」の部分が足りなかったように思う。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・全員が公開授業を行ったことで、普段の授業に対して担任間やグループで検討しやすくなった。
- ・分教室においては、普段知ってもらう機会が少ないため、どんなことをしているか伝える機会になった。
- ・学習指導要領に日々活用しようとする機会になって良かった。特に、解説を読むと、重度生徒に対しても活用できる面があると知ることができた。
- ・時期が夏休み明けすぐだったので新しい取り組みになってしまっただけで積み重ねが少なかったり、実施が文化祭前後だったので普段の授業よりも文化祭の練習という面が強くなったりした。

6 次年度に向けて

- ・公開授業の時期については、1学期・2学期の中旬～終わりにかけて実施にすれば、授業も検討を重ねられて安定すると思われる。
- ・重度重複障害のある生徒に対して、学習指導要領を活用することの意識付けができてきたので、より有効に活用できる為の研修や研究が深められるとよい。

高等部 Bグループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・学習指導要領を使い、対象児童の「美術」「音楽」「国語」「数学」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

高等部4組 数学科「スーパー北村へようこそ」

T1 授業者 北村 賢作

児童生徒の実態	知的・自閉症混合学級（1年生3名 2年生2名 3年生2名） ・わからないときは、黙り込んだり周りを見て答えを合わせたりすることがある。 ・ゲーム的な活動や身近な題材、やり方に慣れてくると意欲的に取り組める。		
本時の目標	・商品の値段を比較して、安い物を選ぶことができる。		
つけたい力	・お金に関わる知識の習得 ・実際の生活場面（買い物）で生かせる力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 先哲の考え方を手掛かりとする	 知識・技能を活用する

○授業の様子



○成果

- ・買う物のテーマを毎時間変えて、今日は何を買うんだろうと生徒が期待して学習に取り組むことができた。
- ・位の数字を見て、値段の比較ができるようになった（どこを見て高い・安いを判断するかが分かるようになった）。
- ・ぴったりの金額を払えないときに繰り上げをして、少し大きい金額を払うことができた。

○課題

- ・数の大小を理解していない生徒へ教えるのが難しかった。
- ・練習したことを実際の場面で試せたらよかった。
- ・持っているお金で商品が買えるか買えないか判断する力を付けたい。

○事後研究会の記録

- ・間違っても、返品して買い直すのが実際の場面に近くてよかった。
- ・生徒たちが、楽しく学んでいるのがよかった。苦手意識を持たずに、楽しく学習できることで力になっていくのではないかな。
- ・実際の場面を想定して、授業を設定するが、実際の場面になるとできないことも多い。実際にスーパーに買い物に行けると良かったかもしれない。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・内容を個に合わせて考えられた。
- ・参観に行ったり見てもらったりして、アイデアをもらえたことが良かった。
- ・タブレット端末での学習に生徒が意欲的だった。調べ学習などにもっと活用していきたい。
- ・考えを伝えたり、発表したりする場をたくさん設定することで、型があるとできるようになった。
- ・その反面、決まった言い方や使い方でないとき難しい場面もあった。友達同士のやりとりがパターン化していて深められない。
- ・日常に近い場面に移行したいが、ステップアップが難しい。
- ・学習指導要領を読んだが、授業づくりや目標に生かすことができなかった。

6 次年度に向けて

- ・指導内容表や学習指導要領を上手く活用して、授業や単元計画を考える。
- ・引き続き「生徒に合った伝え方、日常に近い場面設定」を想定して活動内容を検討する。
- ・やりとりを広げるために、様々な会話のパターンを教えていく。

高等部 Cグループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・指導要領で美術・音楽の内容を確認した。
- ・公開授業に向けて、各教科に対する悩みを出し合い、記入方式でアドバイスし合うことができた。

2 研究授業・公開授業の様子

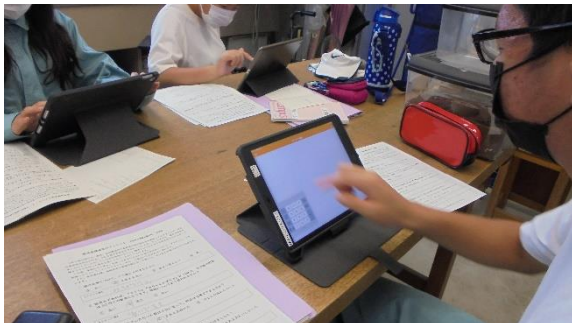
<令和4年度>

高等部Cグループ 単元名「夏野菜の苗についてのアンケート作業学習（農園芸）」

T1 授業者 大田 雄一郎

児童生徒の実態	高等部Cグループ（1年3名、2年2名、3年3名） ・積極的に行動できる生徒は少ないが、誰かが行動を始めるとその様子を見て何かしようと行動を始めた生徒に続くことはできる生徒たちである。		
本時の目標	・アンケートの集約を正確にすることができる。 ・どのように作業をすれば良いか、友達と相談して作業することができる。		
つけたい力	・自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして作業する力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 多様な情報を収集する	 自分の考えを形成する

○授業の様子



○成果

- ・指導者から一定の支援を受けながらも、ほぼ生徒たちの力で集計を行うことができた。
- ・自分の仕事が終わったときに、周囲の友達の様子をうかがって、支援を申し出ることができた生徒が複数名いた。
- ・アプリ「Pages」での、グラフの作り方の基礎を知ることができた。

○課題

- ・友だち同士で教え合い、簡単な課題を生徒たちの力だけで最初から最後まで行えるような課題設定をし、自分たちの力でやりきる力と気持ちを育てていきたい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・アンケート調査をしただけではなく、入力・集約・確認という流れを生徒たちでできたところがよかった。
- ・個に応じた入力のサポート（フリック・50音表など）があったので、指導者を頼らずにできていた。

- ・発問の分かりやすさが大切である。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・授業の悩みに対するアドバイスを記入方法で行うことで、たくさんのアドバイスをもらうことができ、授業に生かした。
- ・研究授業の事後研からは、生徒が自分で分かって動けるような指導ができるように、意識することができた。また、生徒の思考する時間を大切にすることができた。
- ・iPadを資料まとめに生かすなどの活用ができた。
- ・卒業後に必要な力について話し合ったが、話し合っただけでその後の研究につながらなかった。
- ・教科学習などで、指導要領の活用が不十分で、目標に沿った指導ができないことがあった。
- ・指導内容表に沿った指導ができないことがあった。前年度に次年度の内容を決めているが、きちんと引き継いでいく。

6 次年度に向けて

- ・指導内容表の活用。
- ・教科にない社会や理科などの内容を、どんな授業で扱っていけるか考える。
- ・引き続き、「生徒自身が考えて動ける」指導を目指していく。
- ・授業の悩みに対するアドバイスを今年行ったように記入方法で行うのが良い。

高等部 職業自立グループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>

- ・指導要領で美術・音楽の内容を確認した。
- ・職業自立コースでの生徒につけたい力を検討した。
- ・研究授業・公開授業に向けて、各教科に対する悩みを出し合い、アドバイスを基に授業作りを行った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

高等部9・10組 美術科（各教科等名） 「コマ撮り動画制作」 T1授業者 中馬 律之

児童生徒の実態	高等部9組（1年生4名、2年生1名） ・自分の思いを言葉で表現することに課題がある。 ・困ったときに相談することに課題がある。 ・一斉指導の中で理解することが難しい場面がある。		
本時の目標	友達と相談しながら動画制作を進める。		
つけたい力	・相談して解決する力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 振り返って次へつなげる	 協働して課題解決する	 新たなものを創り上げる

○授業の様子



○成果

- ・生徒同士で効果音やアフレコ、質問のやり方など相談して決定していくことができた。
- ・苦手なことに対しても向き合う姿勢が題材を通して身に付いていた。

○課題

- ・生徒自らが時間管理できる工夫
- ・相談しにくい内容（本当の困りごと）など、多様な困難を乗り越えていく力を付けていく。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・生徒たちが主体的に動いていて、相談しながら制作を進めることができていた。
- ・職業自立コース以外のグループでもできるのではないかと可能性を感じる。

5 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・研究仮説を基にした各授業や普段の関わりから、生徒たちが意見を出しやすい雰囲気や「主体は生徒」という認識が作られ、伝えることに課題のある生徒もよく発言するようになるなど、職業自立コースが

設定した「協働的な学習で、自分の考えを深め、表現・伝える力」は、おおむね達成できていた。

- ・グループとしての今年度の課題「つけたい力」は学習指導要領や教科の視点とは違うものであるということや、「つけたい力」「学習指導要領」「ICT」と研究主題に3つの要素があることもあり、難しさや混乱が生じた。

6 次年度に向けて

- ・作業学習における教科の視点を明らかにして、実践していく。その結果が作業学習にどのように反映されるのか、その効果を研究したい。
- ・職業自立で考えたつけたい力が学習指導要領のどの教科のどの項目に当てはまるのかを検討する。
(例：「相談する力」につながる力)